

◎特別支援学校（知的障害）

聴覚障害のある生徒に対する ICT 機器を活用した演奏支援
～文化祭発表を目指した総合的な学習の時間の実践～

1 教科等名および学部・学年

(1) 教科等名 総合的な学習の時間

(2) 学部・学年 高等部 2 年

2 単元のねらい及び計画

(1) 単元名「すみれ祭（校内文化祭）に向けて」

(2) 単元のねらい

- ・自ら進んで活動する。
- ・劇練習を通して仲間と協同する喜びや達成感を味わう。

(3) 単元計画

次 (配時)	主な学習活動	活用する ICT 等支援機器 (アプリ名) 等
一 (4)	・すみれ祭の発表内容を知る。 ・配役を決める。	
二 (16)	・劇の練習をする。	iPad (アプリ「グロックン jr」) Bluetooth イヤホン iPhone (アプリ「Skype」)
三 (4)	・発表をする。 ・振り返りをする。	

3 授業での活用実践

(1) 活用のねらい

- ・休憩時間を利用して、楽しく楽器練習をする。
- ・ガイドとなる音を聞いて、正確なリズムで演奏する。

(2) 生徒の実態

- ・難聴（右 59db, 左 63db）、弱視（右 0.1, 左 0.1、近視性乱視）、知的障害
- ・紙に印字された文字や画像への興味は薄い、パソコン画面など液晶に投影されたものには高い関心を示す。

(3) ICT 等支援機器の活用方法・工夫点

① アプリ「グロックン jr」を利用した楽器練習について

- ・授業時間以外でも演奏ができる仮想楽器アプリを利用して、休み時間等に教室で練習を繰り返した。【写真 1】

② Bluetooth イヤホンを利用した舞台上でのガイドについて

- ・対象生徒は難聴もあり、舞台上では、舞台下からのピアノの音が聞こえなかったため、携帯端末 1 台をピアノ、もう 1 台を本人に持たせ、演奏の邪魔にならないよう Bluetooth イヤホンを着用して、ピアノの音を拾った。【写真 2】【写真 3】



【写真 1】



【写真 2】



【写真 3】

(4) 活用の効果・及び課題

- ・どこでもすぐに練習ができるため、上達が早かった。
- ・ピアノの伴奏に沿って正確に演奏することができた。

4 改善点

【写真 4】

(1) 改善したこと

- ・音楽の授業で、新たに琴の演奏が始まり、仮装楽器アプリ「iKOTO HD」を利用して、対象生徒に演奏の支援を行った。

(2) 改善後の効果

- ・生徒は関心を示したものの、弦楽器を演奏する際の爪を弾く感覚はやはり本物でないと体得することができないようで、アプリを活用する効果は見られなかったが、今後、暗譜をすることやリズムを覚えることができれば、一定の効果が期待できる。

